

(目的) 前報*では牛革を対象に縫い目強さの分布、革に適する糸、針、針目数の選定等、縫製の基礎的な問題について検討した。本報では豚革、緬羊革のヘアーシープとウールシープを対象に前報と同様な検討を行った結果をとりまとめて報告する。

(方法) 試料は豚革(約0.6mm)、緬羊革のヘアーシープ(約0.6mm)とウールシープ(約0.8mm)の3種類である。仕上げの特徴は豚革はスエード、ヘアーシープとウールシープは銀付き素上げ調仕上げである。なお、試料革は市場で流通しているものを用いた。縫製条件はポリエステルフィラメント糸(#50,40,30)、ミシン針は普通針と皮革用針(#12,14,16)、MR針(#2,3,4)の3種類、針目数は9,12,15針/3cm。試料革を背線に対して平行に採取し、工業用上下送り本縫いミシンを用いて縫製後、JIS L 1093のクラブ法に準じて縫い目強さ試験を行った。さらに貫入速度500mm/minでミシン針を革へ貫入させ最大貫通力を測定した。

(結果) 1) 縫い目強さの標準値を示す範囲は、各畜種ともにJIS k 6550の物理試験用試験片採取部位が縫い目強さの標準値に全て含まれ、たて方向に範囲が広がっていた。2) 畜種に適した糸の太さと針目数を検討した結果、豚革は#50のミシン糸に針目数12,15針/3cm、#40では12針/3cmが適当である。ヘアーシープは#50の糸に針目数12,15針/3cm、ウールシープは#40に針目数12針/3cmが適している。3) 針の種類と太さについて縫い目強さから検討した結果、各畜種ともに針の種類と太さによる著しい影響は認められなかった。4) 貫通力は普通針、MR針は針の太さに伴って増加する傾向がみられ、皮革用針は普通針よりもやや小さくなる傾向が認められた。